

咳嗽発症機序up to date病的咳嗽の末梢機序

藤村政樹

金沢大学呼吸器内科

慢性咳嗽の主要な原因疾患には、咳喘息、アトピー咳嗽、副鼻腔気管支症候群、胃食道逆流症がある。それぞれの咳嗽発症機序が解明されつつある。気道における咳嗽刺激に対する知覚神経終末には、気道表層に存在する咳受容体と気道壁深層に存在する気管支平滑筋内に存在する知覚神経終末の二つが想定される。気道表層の咳受容体がA δ 線維かC線維かは明らかではないが、咳受容体は気道内異物を感知して喀出するための生体防御機構として重要である。アトピー咳嗽では気道の好酸球性炎症によって、胃食道逆流症では詳細不明は機序によって咳受容体感受性が亢進して咳嗽が発生する。気道壁深部の気管支平滑筋内の知覚神経はA δ 線維が想定されるが、気管支平滑筋収縮はこの神経終末を刺激して咳嗽を発生させる。咳喘息では気管支平滑筋収縮に対する知覚神経の反応性が亢進しており、わずかな収縮によって咳嗽が発生する。一方気管支喘息では本反応は減弱しており、強い気管支収縮によってのみ咳嗽が発生する。副鼻腔気管支症候群の咳嗽は、気道の過剰な分泌物が正常な感受性の咳受容体を機械的に刺激して咳嗽を発生する。